

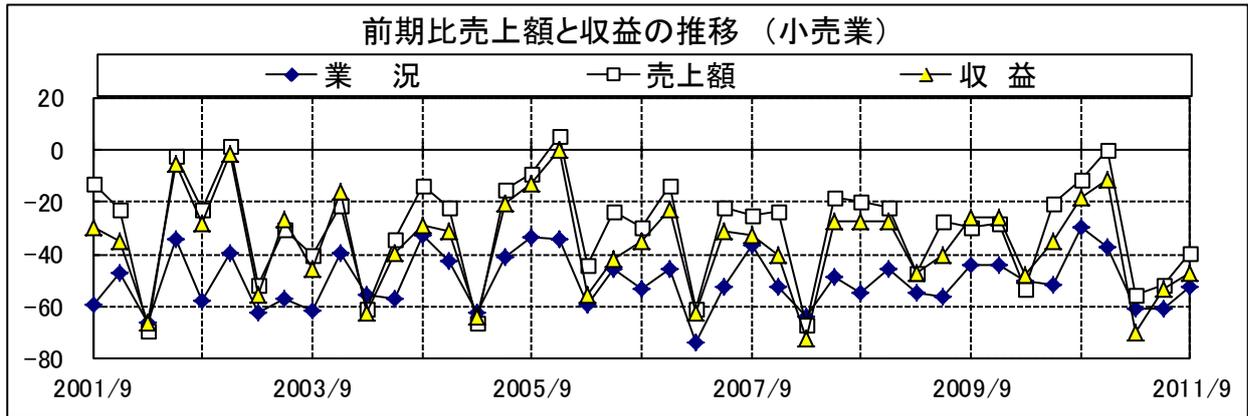
小売業 54 企業（回答率 98.1%）の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
業況	-61.1	-61.0	-52.9	-56.6
売上額	-55.5	-51.8	-39.6	-20.7
収益	-70.3	-53.7	-47.1	-35.8

今期の業況判断DIは $\Delta 52.9$ と、前期比マイナス幅が縮小、8.1ポイント改善した。地区別にみると、浦河、静内、様似えりも、広尾地区が改善し、三石地区で悪化している。

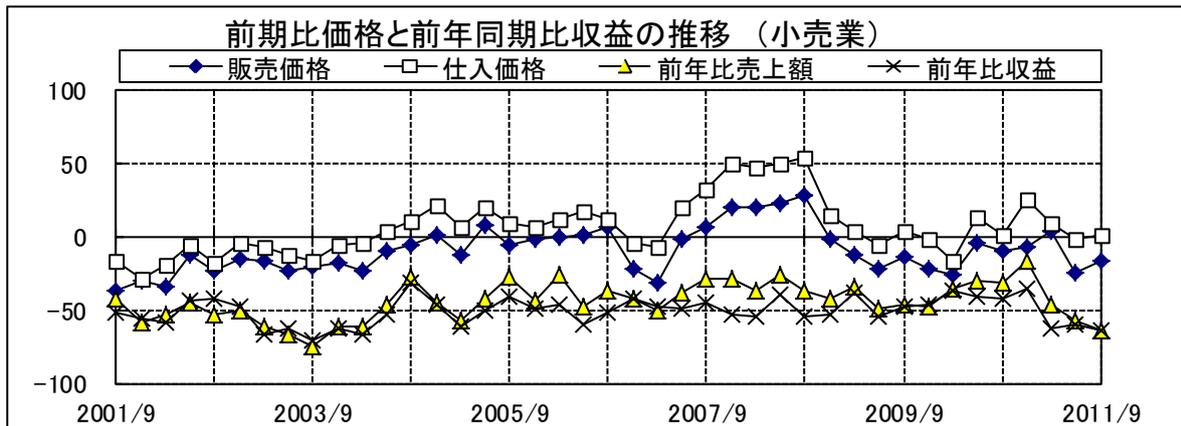
売上額、収益判断DIは、売上額が $\Delta 39.6$ 、収益が $\Delta 47.1$ と、前期比それぞれマイナス幅が縮小し12.2、6.6ポイント改善した。



□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
販売価格	3.8	-24.1	-16.9	-11.2
仕入価格	9.3	-1.8	1.8	-3.8

販売価格判断DI ($\Delta 16.9$)は、前期比マイナス幅が7.2ポイント縮小、価格低下基調を弱めている。仕入価格判断DI (1.8)は、前期比マイナスからプラス値に転じ3.6ポイント上昇、価格上昇基調に転じている。業種別にみると、販売・仕入価格ともに、衣料品、食料品、家電品で上昇している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期実績	10~12月 期見通し
残業時間	-16.7	-12.9	-11.3	-0.1
人手状況	7.4	-7.5	-1.9	-5.7

残業時間判断DIは $\Delta 11.3$ と、前期比マイナス幅が1.6ポイント縮小し、残業時間が減少したとする企業割合が減った。

人手過不足判断DIは $\Delta 1.9$ と、前期比マイナス幅が縮小し5.6ポイント上昇、人手「不足」感を弱めている。

□ 設備投資の動き

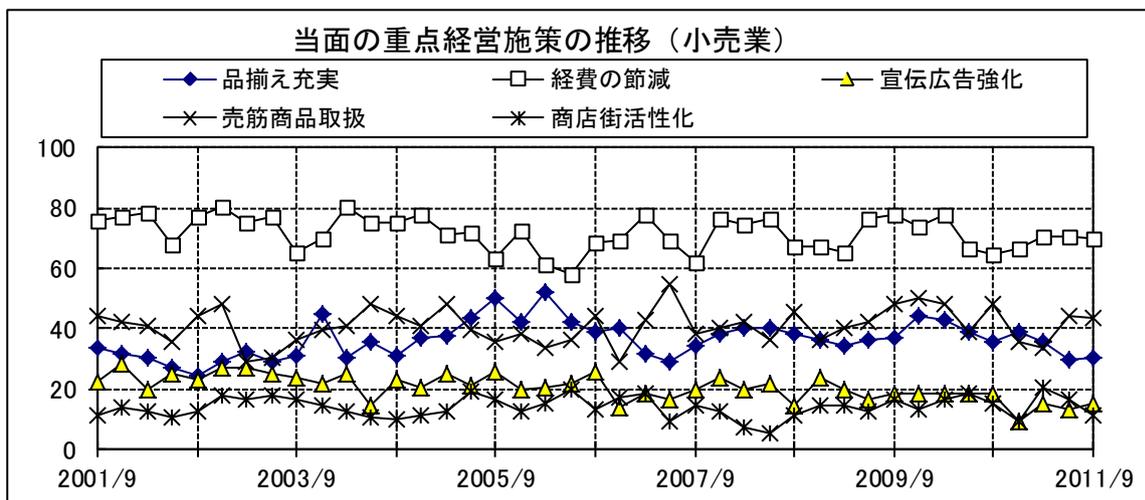
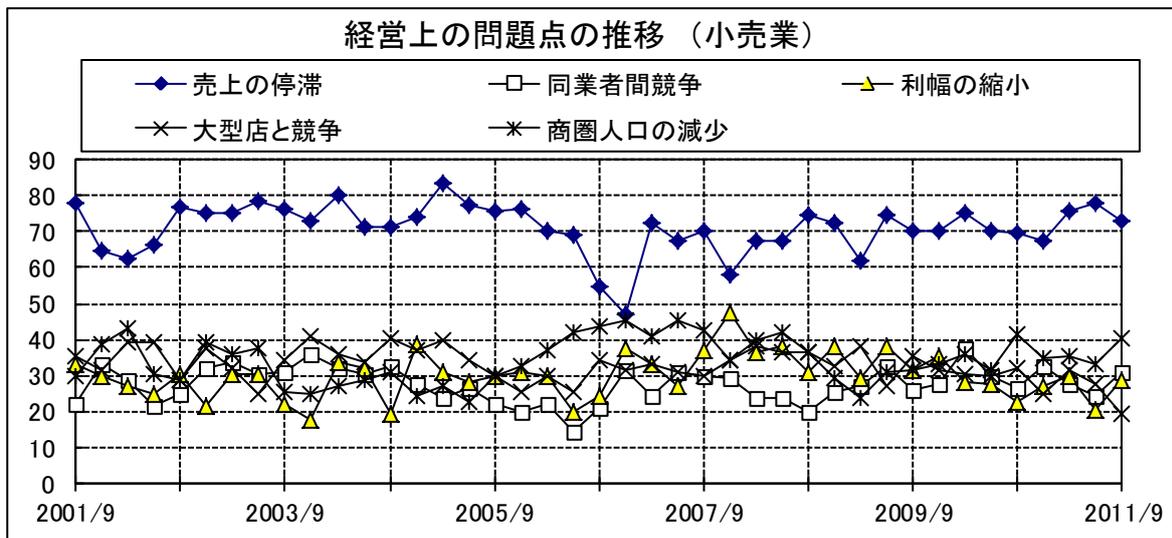
設備投資の充足感を示すD Iは $\Delta 13.2$ と、前期($\Delta 7.5$)からマイナス幅が5.7ポイント拡大し不足感を強める一方、適正と回答した企業は83.0%と、前期(77.7%)比5.3ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は3.8%と、前期(11.1%)比7.3ポイント下降、件数で前期の6社に対し2社の実施となった。来期予定は当期比3社増の5社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ73.1%、次いで「商圈人口の減少」40.4%、「同業者間との競合」30.8%、「利幅の縮小」28.8%、「商店街集客力低下」21.2%、「大型店との競合」19.2%の順に続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ69.8%、次いで「売れ筋商品取扱」43.4%、「品揃えの充実」30.2%、「仕入先を開拓選別」22.6%、「宣伝広告の強化」15.1%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期(平成23年10~12月期)の予想業況判断D Iは $\Delta 56.6$ と、今期($\Delta 52.9$)実績比3.7ポイントの悪化見通しとなっている。予想売上額、予想収益判断D Iは、売上額が $\Delta 20.7$ (今期 $\Delta 39.6$)、収益が $\Delta 35.8$ (今期 $\Delta 47.1$)と、今期実績比それぞれマイナス値が18.9、11.3ポイント縮小し改善の見通しとなっている。予想販売価格判断D Iは $\Delta 11.2$ (今期 $\Delta 16.9$)マイナス幅が5.7ポイント縮小し、価格低下基調が弱まる見通しとなっている。予想仕入価格判断D Iは $\Delta 3.8$ (今期1.8)と、5.6ポイント低下し価格低下基調に転ずる見通しとなっている。

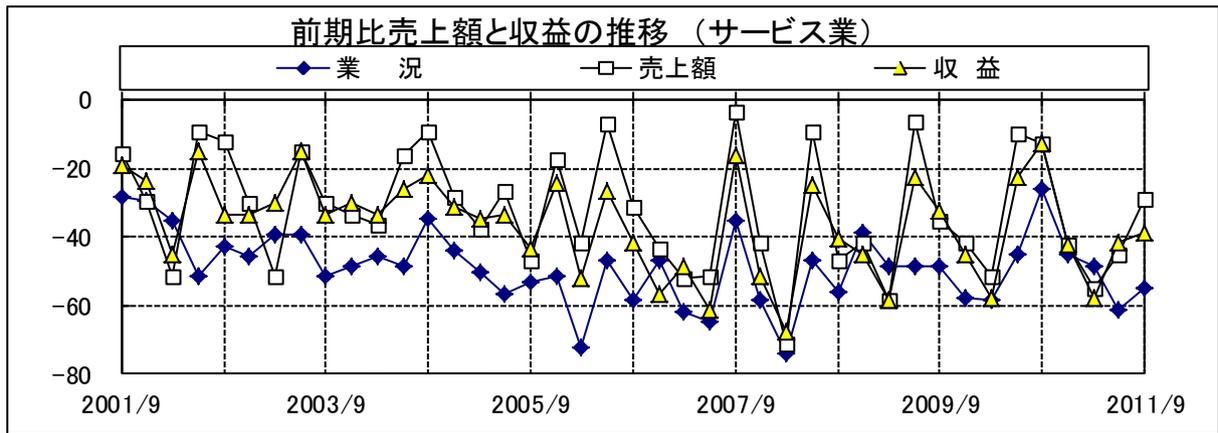
サービス業 31 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
業 況	-48.4	-61.4	-54.8	-58.1
売上額	-54.8	-45.1	-29.0	-51.5
収 益	-58.0	-41.9	-38.8	-58.1

今期の業況判断DIは△54.8と、前期比マイナス幅が縮小し6.6ポイントの改善となった。地区別にみると、静内、三石地区が改善し、浦河地区で悪化している。様似、えりも、広尾地区は横ばいとなっている。

売上額、収益判断DIは、売上額が△29.0、収益が△38.8と、前期比それぞれマイナス値が縮小し16.1、3.1ポイント改善した。

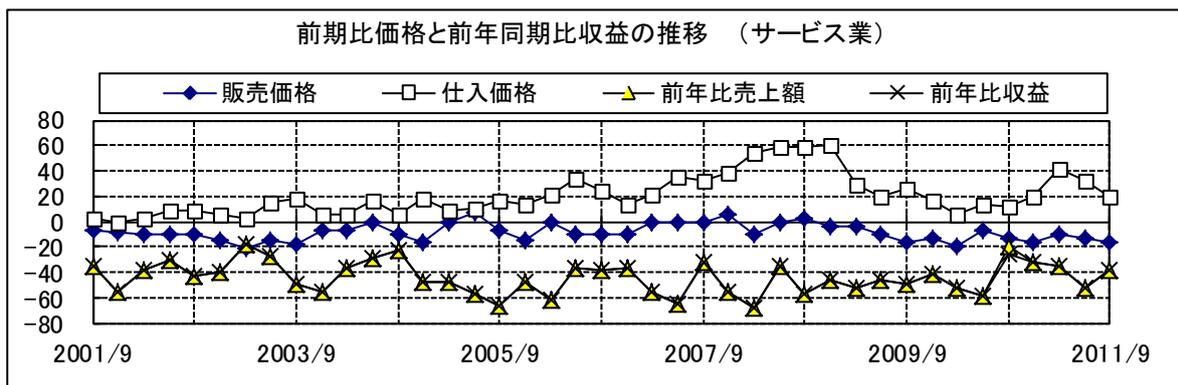


□ 価格面の動きと前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
料金価格	-9.7	-12.8	-16.2	-19.4
材料価格	42.0	32.3	19.4	16.1

料金価格判断DI(△16.2)は、前期比マイナス幅が3.4ポイント拡大し価格低下基調を強めている。材料価格判断DI(19.4)は、前期比プラス幅が12.9ポイント縮小し、価格上昇基調を弱めている。業種別にみると、料金価格は旅館・自動車整備で低下、洗濯・理美容で横ばいとなっている。材料価格は旅館で上昇、洗濯・理美容で横ばい、自動車整備で低下している。

□ 雇用面の動き



DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
残業時間	-16.1	-16.2	-16.2	-19.4
人手状況	3.2	-6.4	-12.9	-9.6

残業時間判断DIは△16.2と、残業時間が減少したとする企業割合は前期比同値。

人手過不足判断DIは△12.9と、前期比マイナス幅が拡大し6.5ポイント低下、人手「不足」感を強めている。

□ 設備投資の動き

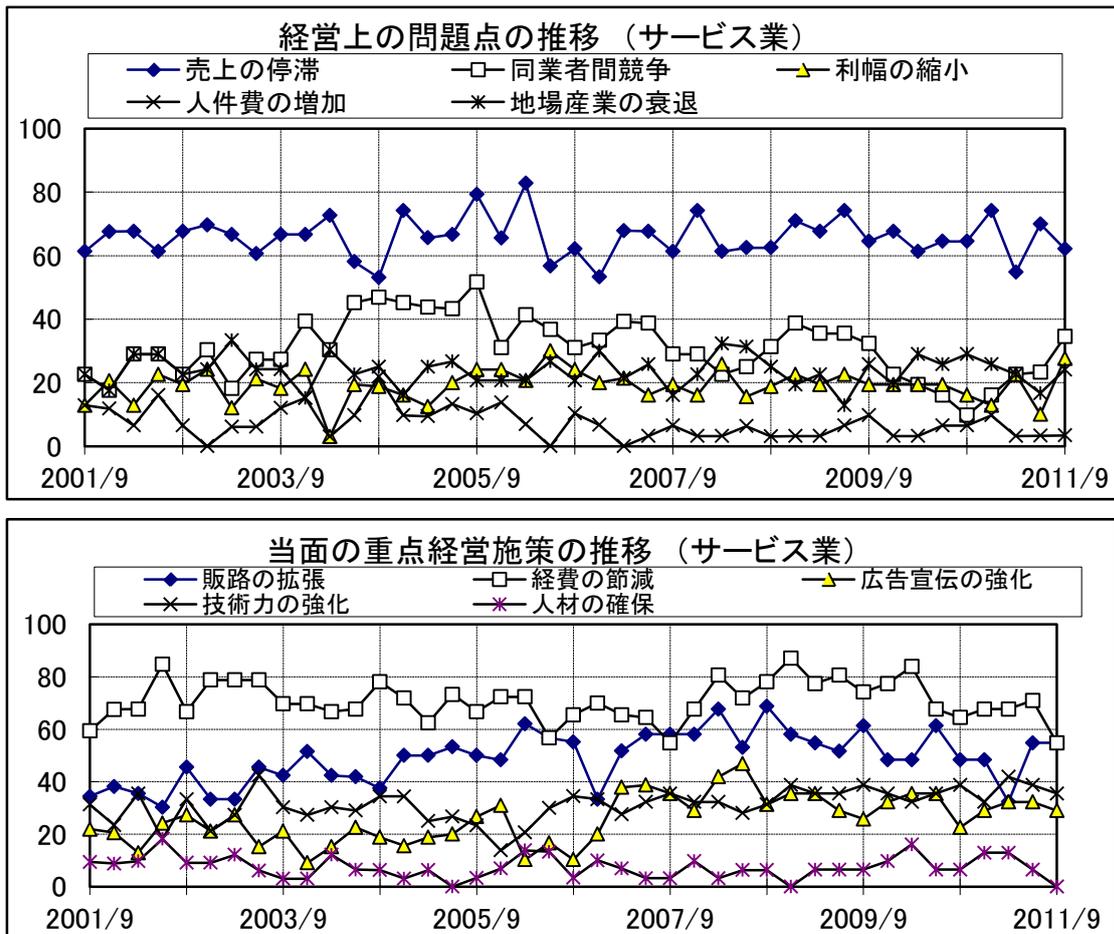
設備投資の充足感を示すD Iは $\Delta 29.0$ と、前期($\Delta 12.9$)からマイナス値が16.1ポイント拡大し不足感を強める一方、適正と回答した企業は51.6%と、前期(67.7%)から16.1ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は41.9%と、前期(12.9%)比29ポイント上昇、件数で前期の4社に対し13社の実施となった。来期予定は当期比6社減の7社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」をトップに挙げ62.1%、次いで「商圏人口の減少」51.7%、「同業者との競合」34.5%、「利幅の縮小」27.6%、「地場産業の衰退」24.1%の順に続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」、「販路を広げる」をトップに挙げ54.8%、次いで「技術力を強化する」35.5%、「宣伝広告の強化」29.0%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期(平成23年10~12月期)の予想業況判断D Iは $\Delta 58.1$ と、今期($\Delta 54.8$)実績比3.3ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、売上額が $\Delta 51.5$ (今期 $\Delta 29.0$)、収益が $\Delta 58.1$ (今期 $\Delta 38.8$)と、今期実績比それぞれマイナス幅が22.5、19.3ポイント拡大し、悪化の見通しとなっている。

予想料金、予想材料価格判断D Iは、料金価格が $\Delta 19.4$ (今期 $\Delta 16.2$)と、今期実績比マイナス幅が3.2ポイント拡大し価格低下基調が強まる見通し。一方、材料価格は16.1(今期19.4)と、今期実績比プラス幅が3.3ポイント縮小、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。